

平成26年度事業報告・決算の概要

理事長 武居 敏

松溪会の昨年度全体を一言で表現すると、大きなマイナス要因はなく、ほぼ順調に推移した1年でした。

まず、近年の保育事業の拡大による職員確保の問題があるため、処遇改善手当の実施、採用計画の見直し等の対応をしました。岡崎保育園では予定された保育士の確保が出来なかった時期があり、市野与進保育園では開設時採用した職員が、一斉に結婚・出産の時期を迎え対応に苦勞しました。放課後児童健全育成事業秋津も制度変更に向けて職員の確保をいたしました。

市野与進保育園の増築事業を計画しましたが、施設整備補助金を受けられないこととなり26年度この事業を実施する事は断念しました。しかし、25年度90人から120人に定員変更したところですが、利用希望者の増に対処するため自己財源でホールの改修を行い、さらに26年度120人定員を27年度から140人定員とするため準備をすすめました。

社会福祉法人制度改革の進行を見て、全国社会福祉法人経営者協議会のホームページ上への掲載を実施し、また松溪会のホームページ全体のリニューアルを進め、本年度より25年度事業報告・決算、26年度現況報告書の掲載を始めました。

財政的にも順調で、借入金返済が高額になった岡崎保育園でも500万円、市野与進保育園では1,200万円の積立金を実行することができ、認定こども園への移行による経済変化に対する準備となったのではないかと思います。放課後児童健全育成事業秋津も順調な決算ができました。

ところで、当法人の経営状況が全国の平均と比較してどのような状況かを知るために、25年度の福祉医療機構貸付先保育所の経営状況調査結果と比較した資料を作りました。この統計資料の中で定員割れを起こしている施設が20.3%もあり、その理由の多くは、利用する児童の減少というよりも必要な保育士が確保できないことによるものと分析していて、私たちとしても特に注意が必要なところ です。

認定こども園への移行は、26年度様子を見ていましたが、行政によって対応状況が異なるため、行政や他団体からの情報を収集し準備を進めてまいります。